

ベネッセSTEAMフェスタ2022

プレインタビュー 第1回

全国の中高生が探究や研究の内容を発表し、意見を交換して、多様な人と学び合う「ベネッセSTEAMフェスタ」。
3月19日(土)26日(土)の開催に先駆けて、エントリーしたチームを紹介します。

東京都 郁文館グローバル高校

チーム名 チーム糸井 発表タイトル「NFTと選挙」

NFTをオンライン選挙に使い、若者の投票率アップ!

Q. 探究テーマを選んだ理由は?

糸井 NFTは、「Non-Fungible Token (非代替性トークン)」のことで、ブロックチェーンで管理ができる暗号資産の一つです。取引履歴はすべて公開され、改ざんしにくいといった特徴があることから、海外では美術品の売買などに用いられています。人気ゲームをしている時、その技術がゲームにも使われていると知り、興味を持ちました。日本で何か活用できないのかと考え、思いついたのが、オンライン選挙です。高校の現代社会の授業で、10代や20代の投票率が低いことを知り、若者の意見が政治に反映されにくくなっているのではないかと、友人と話し合っていたからです。NFTを利用したオンライン選挙が実現すれば、若者の投票率が上がり、意見も伝わりやすくなるのではないかと考えました。

Q. 探究の内容や発表の見所を教えてください!

糸井 事前調査では、NFTを利用したオンライン選挙は、海外でもあまり実施されていないと分かりました。そこで、そもそもオンライン選挙にNFTを利用できるのか、また実現した際に運用面や公平性に問題点がないかを検証したいと考えています。そのためには、実際にNFTを利用した投票システムを構築する必要があると思い、3つのプログラミング言語を学んでいるところです。

フェスタでは、その過程と現時点で感じている課題を発表予定です。システムが完成したら、まずは学校の生徒会選挙で活用し、検証しようと考えています。将来は起業をするのが夢です。

Q. フェスタへの期待を一言!

糸井 プログラミングは初めての経験で、一からブロックチェーンについて学んでいます。開発のための壁を一つずつ自分で解決していく面白さを実感しています。フェスタを通じて、ブロックチェーンに興味がある方や既に研究をしている方とつながり、自分がつまずいているところを相談したり、アドバイスをもらったりして研究を深めたいです。

チームメンバー



現在、カナダに留学中のチーム糸井の糸井さん。フェスタにはカナダから参加します!

発表内容(予定)

NFTと選挙

郁文館グローバル高等学校 糸井

1. 全体要約

私はこのレポートで選挙での新たな投票方法について書く。その方法とはNFTを使う方法である。NFTの技術を応用することで、従来の投票会場に行って投票するのではなくスマホ一台で手軽に投票できるようになる。つまり、オンライン投票が可能になる。なぜ、NFTがオンライン投票を可能にするのか。そこには3つのNFTの特徴が関係している。1つ目はスマートコントラクトである。この機能はブロックチェーン上の取引をプログラムで

郁文館グローバル高校には「協働ゼミ」があり、糸井さんはメディアデザインゼミに所属。海外の事例を調べた結果も発表予定。



「果たしてその1票は清き1票なのか」と、研究が実現した先の課題を見据えている点も見所です!

指導担当 島村祥一先生



プログラミングは海のように広い世界。発表を通じて、今後、どう攻めるか絞っていけるとよいと思います。

指導担当 戸田皓太先生

選挙とNFTを結びつけ、独学でトークンを作るという独創性に期待しています!

STEAMフェスタ事務局 芦野恒輔



今回で13回目となる「ベネッセSTEAMフェスタ」には、全国の中学・高校から110チーム約280人がエントリー。多種多様な分野から発表されます! 詳しい開催概要は、下のURL、または右の2次元コードからアクセスしてご覧ください。
<https://steamfesta.benesse.co.jp/>

